

山際周辺地区(佐伯市)

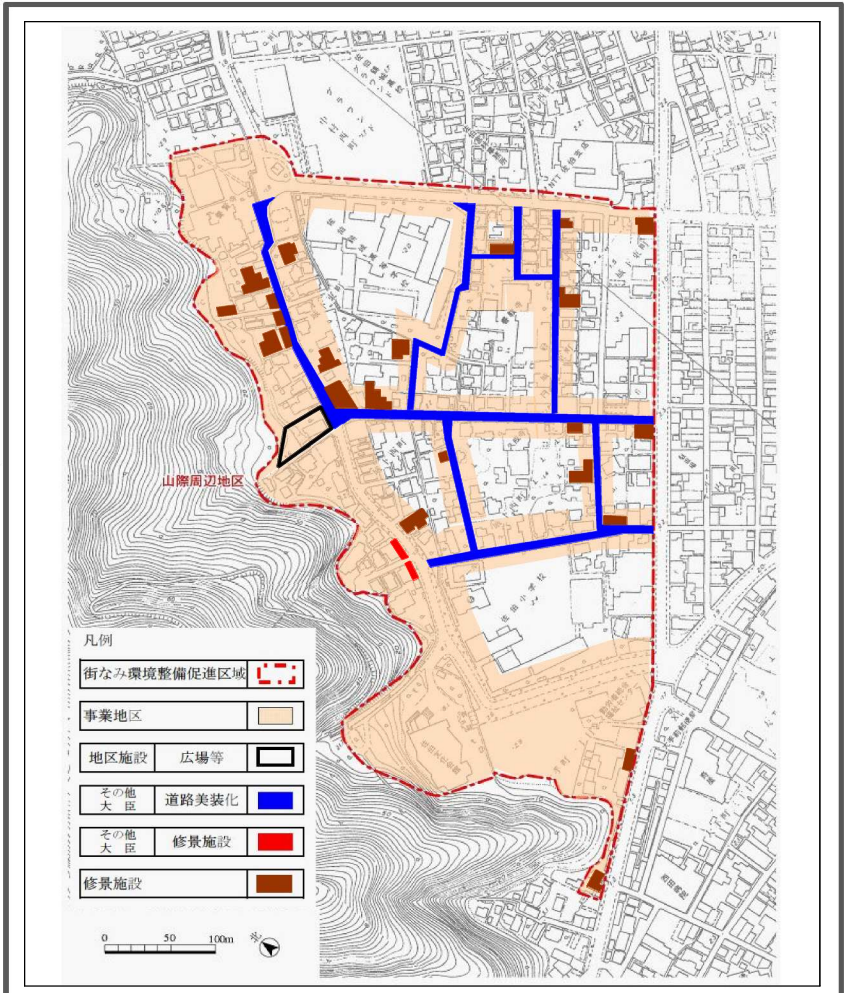
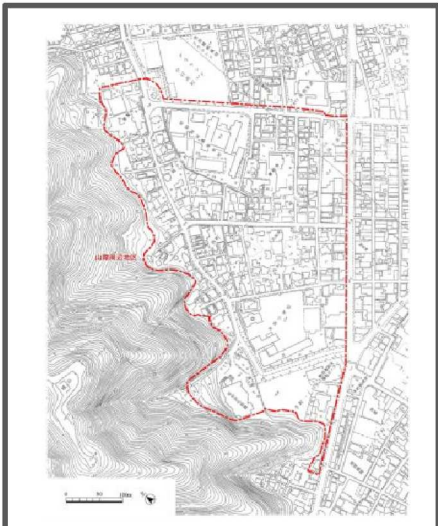
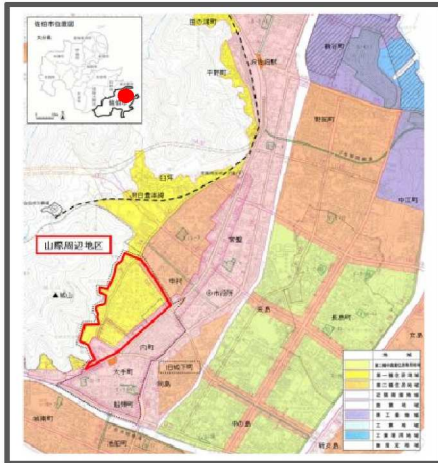
計画期間	平成17年度～26年度
面積	約18 ha
全体事業費	528,900 千円
市人口	80323人

まちづくりの目標

歴史のある城下町のまちなみ形成と日常の住民の生活を大切にする中で住居環境を高めつつ、市民及び観光客を含む来街者にも城下町の落ち着いた心地よさを伝える街なみづくりを目標としています。

主な事業内容と事業費・事業期間

- 小公園整備事業 地区住民や観光客の憩いの場としての公園整備 34,700千円 H19～21年度
- 道路の美装化 周辺の観光資源とネットワークを組み周辺の景観に配慮した道路整備 369,600千円 H17～26年度
- 住宅等修景補助 伝統的建築物の保存とそれ以外の建造物の新築等に補助する 117,600千円 H17～H26年度
- 修景施設整備 伝統的建造物の保存により歴史的景観を形成する 7,000千円 H22～23年度



地区の歴史・風土

佐伯市の城下町形成は、関ヶ原の戦後慶長6年(1601年)毛利高政が日田より転封され、豊後佐伯城を築造したことに始まります。城郭は、標高140mの城山(当時は八幡山と呼ばれていた。)の山上に築かれ、山裾の東に広がる番匠川の堆積地に町を開きました。城下町は、番匠川とその支川や堀、塁壁等で城下と城外に区割されました。山際地区は、城山とその麓を固めた給人屋敷及びそれに連なる徒士の屋敷があった所です。この地区には、当時の地割がよく残り、旧武家住宅や門、塀が背後の緑の城山の自然環境と一体となって、格調の高い歴史的景観を形成しています。

地区の現況と課題

山際周辺地区は、歴史的なたたずまいが今も残る所として平成17年3月に誕生した新佐伯市のシンボルゾーンとなっています。しかし、使い手をなくした歴史的な建物は取り壊さざるを得なくなるなどこの地区の良さを後世に伝えていくことが困難となっていました。この地区の良さを後世に伝えていきながら、地区住民とこの地区へ訪れる人とのニーズを満足させることが必要でした。

事業取り組みと成果

平成14年度に佐伯市まちづくり総合支援事業の計画策定のため、地元の協議機関としてまちづくり協議会を設置しました。そのなかで平成16年度に街なみ環境整備事業の基本構想として、①山際周辺地区の景観に配慮したモノづくり、②住民活動の場やおもてなしの場づくりへの創意工夫を促す、③山際周辺散策を楽しく滑らかに、④今ある資源を最大限活かす、⑤隣接地区とりわけ大手前地区との役割分担を図る、の重点項目を定めました。これまで、休憩所として使える小広場の整備や、山際の趣にあった道路・建造物の整備を進めてきました。

地区の主なイベント・食

毎年4月に開催される佐伯春まつりではメイン会場と隣接し来場者の散策の場となっています。同時に地区内で行われる「竹灯物語」と「菊姫行列」は毎年多くの観覧者を招いています。市の施設の「汲心亭」や個人のお店ではお茶会が定期的に行われ観光客の好評を得ています。

地区のまちづくり協議会・地域の活動

小公園整備や道路整備についてのワークショップを開催し、具体的な整備方法を検討しました。年に数回開かれる中心市街地のまちづくり協議会で事業の実施報告や計画内容の説明を行っています。

これからの取り組み

中心市街地活性化基本計画の区域の中にある山際地区は、周辺地区と関連しながら整備を進めることとなります。活性化の目標として、都市機能の配置と回遊性の向上によって便利で暮らしやすい生活環境を整え地区住民や市民が集う街、豊かな自然と観光資源を活かした観光による交流促進を図り観光客が集う街、を目指し各事業を実施します。



▲城山の麓から中心市街地を望む



▲山際地区



▲門の修景前(左)と後



▲竹灯物語



▲菊姫行列



▲山際通り部会

事業のお問い合わせ先

佐伯市
都市計画課計画係
TEL 0972-22-3269(直通)